開業医医療研究会報告

病診連携
：私の場合

田島正孝
田島クリニック（春日井市）

私は、平成4年12月に春日井市高蔵寺ニュータウンで田島クリニックとして開業するまで、脳神経外科医として勤務しており、開業する意思のないままに突然開業したようなもので、開業してからは初めて経験する事が多く、いろいろ苦労があった。春日井市民病院の症例検討会や製薬メーカー、医師会の講演会に積極的に参加するようにしたりして勉強もしたが、田島クリニックの診療方針としては消化器、呼吸器、循環器疾患はなるべく早く専門医に紹介する、またレ線写真で骨折が見付かれば、整形外科専門医に紹介するという事でやってきた。

そこで、1994年12月から1997年2月までの4年3ヶ月の間のカルテを全部出して紹介状の宛先を調べてみた。病院紹介は432件で78%である（**表1**）。年々件数が増えているが、これは、患者数の増加によるものである（**表2**）。紹介先は全部で37病院である（**表3**）。紹介先病院の種類は、総合病院が一番多く350件で、大学病院と専門病院がそれに続いている（**表4**）。一番多いのは、瀬戸の陶生病院で116件である。田島クリニックから陶生病院までの距離は10.5kmで春日井市民病院までは12kmで陶生病院の方が近い事、愛環鉄道があり交通アクセスが良い事、高蔵寺町では春日井市に合併する前には陶生病院の組合に加入しており、以前から陶生病院との結び付きがあった事などがその理由として挙げられる。紹介する科は、主として呼吸器科、循環器科、消化器科、皮膚科である。春日井市民病院にも受診をすすめるが、先ほど挙げた理由により、陶生病院より57件も少なくなっている。ただし狭心症、心筋硬塞の疑いのある場合は、積極的に春日井市民病院の循環器科に紹介するようにしている。徳州会病院と東海記念病院はほぼ同じ位の件数である。二つの病院とも高蔵寺ニュータウンの近くにあり、田島クリニックからは、約5kmの距離である。徳州会病院は総

表1　田島クリニックの紹介件数（1992.12〜1997.2）

病院紹介	432件
診療所紹介	124件
合計	556件

表2　病院紹介の年度別件数

1992年	6（件）
1993年	62
1994年	91
1995年	115
1996年	132
1997年	26
合計	432 件

表3　紹介した病院の種類

総合病院	21	350（件）
大学病院	4	43
専門病院	9	35
老人病院	2	3
中小病院	1	1
合計	37 病院	432 件

表4　上位15位までの紹介病院

陶生病院	116	（件）
春日井市民病院	59	
徳州会病院	56	
東海記念病院	54	
名古屋大学病院	29	
国立名古屋病院	22	
小牧市民病院	14	
愛知県がんセンター	11	
愛知医大病院	9	
県立多治見病院	8	
春日井整形外科病院	5	
コロニー中央病院	5	
三宅眼科病院	5	
国立静岡東病院	4	
保健衛生大病院	3	

合病院であるが、東海記念病院は産婦人科と小児科がなく、総合病院になっていないが、総合病院に準じた中堅クラスの病院である。この二つの病院は事情があり、春日井市医師会に加入しておらず、この為病診連携がうまくいっているとは言えないが、高蔵寺ニュータウンやその近くには同じようなクラスの病院はなく、受診希望が多い。患者が以前入院した事があるとか、近くなので家族が行くのに都合がいいという事で紹介している。骨折や肺炎など比較的高齢の患者が多いようである。名大病院には、脳神経外科に脳腫瘍の患者をお願いし、また口腔外科には顎関節症などの患者をお願いしている。私が名大脳神経外科病棟で病棟医長をやっていた頃は口腔外科との混合病棟であり、名大口腔外科には親しみを感じているからである。国立名古屋病院には同級生が内分泌内科にいるので、主として甲状腺疾患を紹介している。また同院の脳神経外科には末端肥大症の患者に経鼻的脳下垂体手術をやっていただいた。

小牧市民病院への紹介は、以前かかった事があるとか、現在他の病気で通院中であるといった事が多かった。小牧市民病院の脳神経外科では最近脳硬塞に対し、発症後6時間以内であれば心筋硬塞と同じようにカテーテルを内頚動脈から中大脳動脈に入れ、血栓溶解剤を注入し半身麻痺の改善を図っている。この為、小牧市民病院脳神経外科では何時でも24時間体制で当番医が待機し、このような処置がいつでも出来るようになっている。当クリニックではまだこの様な症例はないが、新しい脳硬塞の症例が来れば3時間以内に紹介したいと考えている。愛知県がんセンターには、悪性腫瘍の疑われた患者を紹介した。愛知医大病院には形成外科、耳鼻科の眩暈外来などが主な紹介先である。また愛知医大は各科専門医が毎日当直をやっているので、眼痛の急患を夜11時ごろ紹介し深夜にもかかわらず、眼科専門医の診察が受けられ、ただちに入院となり患者から感謝された事もあった。コロニー中央病院には、脊椎側弯症、先天性胆道閉鎖症の術後成人例などである。コロニー中央病院は私の所から一番近い病院であり、開業当初に麻酔科の先生に挨拶に伺い、私の所でショックなど緊急事態が生じた時は宜しくとお願いしたが、今だ幸にしてこのような事は起こっていない。麻酔科専門医との病診連携もいろいろな問題があり、今後の課題である。国立静岡東病院てんかんセンターに難治性癲癇の患者をお願いした。阿久比町にあるスポーツ医科学研究所には、スポーツ整形外科の横江先生に名古屋大学ボート部の選手や愛工大名電高校の野球部の選手を紹介している。普通の整形外科ではスポーツを止めなさいという事になるが、スポーツ整形外科では、スポーツをやりながら、またなるべくスポーツ中止の期間を短くして治療を行う。

以上が私が体験した病診連携のまとめであるが、この中での問題点や今後の度望について述べてみたい。

まずはじめに、診療所で所見に自信がない、または分からない場合のレントゲンやCTの判読をどこに依頼すべきかである。現在は、医大の放射線科の先生に月に1回、胸や腹部のCTや胸部XPを持参し、所見をつけて頂き、一応ダブルチェックの体制を取っている。今まで私が見落とした腹部や肺の癌が4例、放射線科の先生により指摘された。大腸癌の一例は、腹部CTで結腸の拡大があ

り、それにより肛門側に大腸癌が疑われた症例である（**図1**）。私はCTでその所見を見落とし、放射線科の先生に指摘され愛知県がんセンターに紹介し、検査にて大腸癌が見付かり手術を受けた。総合病院の内科は現在臓器別になっている所が多く、私のように呼吸器も消化器も専門外という医者にとっては、放射線科の先生にお願いして良かったと考えている。

次に、診療所が病院に患者を紹介すると、症状が落ち着いても、病院に引き続き通院する事は多いのかという事である。春日井市民病院への紹介患者のその後の経過を春日井市医師会の岡島先生がアンケート方式で調査した結果では、紹介患者が戻された割合は61.6%で、戻されなかったのは29.7%、紹介患者の転機不明が8.7%、死亡が0.4%であったと報告している。私のクリニックでも正確な統計を出してはいないが、同じ位の割合であると感じている。

3番目は入院先の病院へ診療所の医師が患者を回診に行くのは何%位かである。愛知県下のある都市では5%位であるとの事であった。私の所では0%である。在宅訪問診療をやっているので日中は時間がなく、夜は8時過ぎでないと行けないので、一度も行っていない。

4番目は病院での症例検討会や病診連携懇談会である。春日井市医師会と春日井市民病院で行っている症例検討会について述べたい。

毎月1～2回、春日井市民病院の会議室で2時から3時半まで行われ、最初は内科だけの症例検討会であったが、昨年頃より外科、小児科、耳鼻科、皮膚科などの症例検討会も開かれるようになった。話題提供される春日井市民病院の先生方の大変なご努力により、心エコー検査の実地練習や、病理の先生も同席して頂きCPC形式で行われた事もあった。出席の春日井市医師会の先生の人数は10～15人位である。医師会や製薬メーカーの講演会ではなかなか質問しにくいが、このような症例検討会では気軽に質問出来て、私のような脳神経外科しか知らない者にとっては、ピントはずれの質問にも丁寧に答えてくださり大変に有り難く思う。また回を重ねるごとに春日井市民病院の先生方とも顔馴染みになり、入院治療をお願いする場合も電話一つで気軽に引き受けて頂き、心電図で分からない場合でも電話で約束してから、心電図を持参し春日井市民病院まで出掛け、いろいろ教えて頂き、日常診療に役立っている。

図1　CTにて上行結腸の拡張を認め、その肛門側に大腸腫瘍が疑われた症例（72歳・男）

愛知医報に「海部郡医師会における病診連携」と題して渡辺先生が病診連携懇談会について述べている。病診連携でいう「機関連携」以前の問題として医師同志のヒューマンコミュニケーションが大切であり、病院の勤務医と開業医との相互信頼関係が必要であるが、交流が少ない、面識がない事が大きな障害となっているので、面識をもち、談笑する場を持つ事を考え、病診連携パーティーを企画開催し大変に有意義であったと述べている。春日井市医師会でも、今年の新年会には春日井市民病院の先生方にも出席して頂き、病診連携の面でも大変に有意義であった。

以上、私自身の病診連携の体験を述べた。春日井市民病院も新築移転し、新しくオープン病床が出来る予定である。今までの春日井市民病院の先生方のご努力に対し感謝するとともに、春日井市における病診連携が今後ますます発展する事を望んでいる。